



# 「維新の魁・天誅組」保存伝承・顕彰推進協議会 「天誅組」義挙150年に向けて盛り上がる五條

文久3年（1863）、明治維新まで4年という幕末期、五條を舞台に攘夷派志士たちが挙兵した「天誅組」の義挙は、その後の倒幕から新時代へと至る「魁<sup>さきがけ</sup>」となった。

平成25年（2013）は、この「天誅組」義挙から150年にあたることから、「維新の魁・天誅組」保存伝承・顕彰推進協議会（会長 田中修司氏）では、この記念年に向け、各地との交流や講座開催など、より広域的に様々な事業を開始している。

平成17年に設立された同会は、それまで天誅組の歴史の保存・情報発信活動を行っていた「天誅組保存会」と、五條市、高取町、東吉野村など、天誅組関連地域の有志が結集したもので、その後、維新ファンを中心に全国に会員組織を広げつつある。

### ■明治維新の魁「天誅組」の義挙

「天誅組」の義挙は、文久3年8月13日、天皇の大和行幸、攘夷親征の詔勅が発せられたことを受けて、その先鋒となるべく、攘夷派公卿の中山忠光卿を主将に、吉村虎太郎（土佐脱藩）ら40余名が、同17日に、当時幕府領であった大和五條の代官所を焼き討ち。天皇直轄地とする旨を宣言し、「五條御政府」を宣したものである。

しかし、挙兵の直後、京都でいわゆる「八月十八日の政変」が起こり、朝廷内の攘夷派は失脚してしまったことから、一転して「天誅組」は大義名分を失い、幕府から追討を受ける身となった。

その後、高取城攻めの失敗、吉野山間地の転戦を経て、東吉野村内で終焉を迎えたが、この間、1カ月余りとあまりに短く局地的な動乱と捉えられがちだが、集まった志士は、土佐、三河を始め全国に及び、後の倒幕・明治維新の大きな流れへと導く「魁」として、歴史的な意義は大きいものであった。

### ■150年記念年に向け広域化する協議会の活動

現在、同協議会が事務局を置いている旧五條代官所長屋門は、指定管理者として五條市から運営管理を受託しているもので、「民俗資料館」とし



民俗資料館長屋門



同協議会発行の図書  
「維新の魁 天誅組」  
(舟久保藍氏著)

て、「天誅組」に関する情報発信の拠点となっている。

これまで、バスツアーやイベントの相互参加などで、県外のゆかりの地との交流も活発化しており、吉村虎太郎の生地である高知県津野町では、古くから伝わる農村歌舞伎において、同協議会特別理事舟久保藍氏によるオリジナル脚本で「虎太郎魁大和錦」が上演されるようになった。

同協議会では、再来年の150年記念年に向けて、ゆかりのある各地と長い付き合いのできる大きな事業としたい考えであるが、第一弾として今年7月から土曜講座「長屋門さきがけ塾」と題して、幕末期の五條周辺に関わる歴史文化などを学び、情報発信する講座を開催している。

また、田中修司会長主宰の「NPO 法人うちの館」が管理運営する「市立五條文化博物館」、俳人藤岡玉骨の生家である登録有形文化財「藤岡家住宅」と合わせて、五條の歴史文化を今に伝える資産として、「天誅組」を核としていきたい考えである。（山城 満）

### ■詳しいお問い合わせ先・ホームページ

「維新の魁・天誅組」保存伝承・顕彰推進協議会  
五條市新町3丁目3-1 史跡公園長屋門内  
TEL/FAX：0747-22-0450  
URL：<http://www.tenchugumi.jp>